

子どもたちの明日

Children, Our Future

2022 年 3 月
133 号

目次

- ・ CYK とのパートナーシップ 1 頁
- ・ 資金集めの取り組み始まる 3 頁
- ・ CYR 情報 4 頁

CYK とのパートナーシップ

スム・ソペア

コンボンチュナン州教育局副局長
同州前幼児教育事務所長



教材研修で指導するスム氏

カンボジアの幼児教育

カンボジア政府は 2023 年までの 5 ヶ年計画の中で幼児教育の優先課題に取り組んでいます。公平で質の高い幼児教育へのアクセスを増やす、地域幼稚園の最低基準を設け保育の質を高めるスタンダード認定制度の導入、幼児教育関連機関のマネジメント能力を強くすることなどです。実現にむけ、幼児教育事務所と郡の教育局は地区評議会、保護者、そして NGO 団体をパートナーとして協働しています。

地域の利益を優先する CYK

コンボンチュナン州内で幼児教育を推進している NGO は 3 団体です。トンレサップ川沿いで水上生活世帯の子どもに幼児教育を提供しているセーブ・ザ・チルドレン、地域幼稚園に教材などを支援しているワールド・ビジョン、そして CYK です。

CYK の良いところは地域の利益を優先的に考えていることです。活動を始める前に州や郡の担当者、地域の方々と相談し、事業を進めながら一緒に考え決定していくので問題がないし協力しやすいです。州の教育局内ではいつも CYK の良い点が話題になり、他の団体にも話しています。

「村の幼稚園」事業は地域が自分たちで運営していくための様々な仕組みが考えられています。まず、幼稚園を開く場所を決めるときは、地域から要請が郡の教育事務所、州の教育局を通して CYK に出されます。一緒に現場での調査を行い、CYK が開設場所を決めると州・郡の幼児教育担当者へ連絡があり、地区評議会のメンバーと幼稚園の運営委員会を立ち上げます。契約を結び、園舎建設、モニタリングや学校行事など、いずれも村・地区、所管する幼児教育行政、CYK の 3 者が揃って進めるので、CYK

の手が離れたあとも村は地域がサポートしてゆく体制ができます。

3 年間の支援中、保護者からの協力金を貯めておくことも CYK の編み出した地域が自分たちで運営していくための仕組みです。貧しい保護者でも、保育教材の布ボール・人形の縫い仕事が提供されるので協力できます。この貯金は幼稚園が地域に移管されるとき運営に必要な資金として運営委員会に渡されます。平均して 400 ～ 500 ドルですが、中には 1,000 ドル余り貯めた幼稚園もありました。

また、2018 年に地域幼稚園のスタンダード認定制度が施行されるや、CYK は保育者たちがスタンダードを学び実践できるよう 10 日間の集中研修会を企画し、毎年開催しています。認定を受けると保育者の給与が国から出ることになり、幼稚園の地域での運営が安定するからです。研修を受けたこともない地域幼



認定 NPO 法人
幼い難民を考える会
CYR CARING FOR YOUNG REFUGEES



CYK の教材セットを参加した保育者に手渡す



研修開始前、説明の分担や方法を打ち合わせ

稚園の保育者から勉強したいと要請があったときには、CYK の研修会に参加する機会をつくっています。

CYK の運営している幼稚園の保育者はみな能力が高く、2-3 年で教育省の地域幼稚園スタンダード認定を申請できます。定期的なモニタリングや保育者能力を高めるための集中研修を通じて保育者が安心して学び、仕事に自信がもてるようになるからだと思います。このプロセスに郡の教育事務所は研修指導の機会を与えていただいています。こうした経験は担当者が指導能力を高める機会になり、管轄の別の幼稚園の指導にも役立ちます。このようないくつかの取り組みのすべてが地域の利益を優先させ、自分たちで幼児教育に責任を持っていくことにつながっていると思います。

すべての子どもに機会を
コンボンチュナン州には CYK の 16 園を含めて 346 園（508 クラス）の幼稚園があり、13,462 人の子どもが登園しています。しかし 3-5 歳児

の 64%にはまだそのチャンスがありません。CYK には 5 郡で幼稚園の開設をサポートしていただきましたが、他の郡にも広げて、一緒にすべての子どもが幼児教育にアクセスできるようにしていきたいです。特に脆弱で不利な環境にある子どもたちに質の高い教育を提供できるよう準備すること、および幼児教育に携わる関連した部署で働く人たちの管理能力を高めたいと考えています。

一緒に育てたい“たけのこ”
カンボジアでは、“最初によく世話されたたけのこは立派な竹になる”ということわざがあります。芽が出始めの頃に牛に踏まれたり犬に掘られたりしないよう柵で守り、肥料や水をやれば、たけのこはすくすく育ち立派な竹になります。子どももたけのこのように、幼い時期に適切な環境で色々な楽しい経験をし、優しく、丁寧に教えてあげれば、健やかに成長して、将来立派な大人になり、国の柱となって、国を発展させることができる人材になります。

私たちは幼児教育担当者としてこのことがよく分かっていますが、政府の予算が限られているので、やりたくてもできないことがたくさんあります。日本の皆さまには今までご支援いただいていることに変感謝しております。たけのこが育っていくためには日本の皆さまのご協力をまだまだお願いしなければなりません。引き続き「村の幼稚園」の運営支援だけでなく、公立幼稚園にもご支援いただくようお願い致します。



資金集めの取り組み 始まる

チャン・スレイ
プノンペン事務所長

今までカンボジアでの事業に必要な資金のほとんどを CYR の東京事務所にお願ひし、CYK は安心して活動に専念してきました。しかし日本での募金はだんだん減少してきています。特に 2020 年からコロナウイルス感染症によって世界中が経済的に厳しくなり、日本でも資金集めが大変になったため、必要な情報・計画などを話し合うだけでなく、カンボジアでも寄付のお願いをするようになりました。

チームでまなぶ

資金集めの経験がなくその方法が全然分からないので、私はとても心配でした。専門家から学んで、CYK スタッフと話し合い協力し合いながら、進めていくことにしました。CYK の経理マネージャー、経理・ビジネスアドミニストレーション担当、保育調整員と私の 4 名のチームです。カンボジア人専門家の指導のもと、それぞれの考えを出し、案を持ち寄り検討してきました。

CYK ではできていなかった中期計画やその事業予算を集める方法を話し合い作成しました。支援をお願いする申請書や報告書も実際に作りながら書き方を学びました。事業の関係者グループへの聞き取り調査は、チームで支援地域の村まで出かけて行いました。現状認識の方法論を含めた小規模な調査の実施方法も実践に基づいたことから学びました。教育省や州、郡の幼児教育担当者、現地 NGO への聞き取りはオンラインでも行いました。調査の目的に沿った質問の仕方、知りたいことを聞き出す手法も学びました。研修で保育者にどんな



CYK と郡の幼児教育担当者は一緒に「村の幼稚園」を開設する村に向かう

状況で考えたことなのか、難しいと感じた点など、課題や改善点を確認するやりとりと似て、日ごろの活動でも役立つ研修内容でした。

専門家との研修の合間には CCC（Cooperation Committee for Cambodia; カンボジアでの NGO のネットワーク）が開催した現地で支援金を集める方法の研修にもスタッフ 2 名が参加しました。NGO や企業などが合同で行うチャリティイベントに参加する準備をしています。事業の効果を調べ、成果や課題を探り出すためのモニタリングと評価システムも CCC の専門チームから学び、事業評価に実際に使用できるようにしました。

2021 年は、スタッフの友人や親せきなどからご寄付を頂戴し、園舎の建設費用などに一定の成果を出すことができました。しかし研修内容に遅れが出て、計画通りに調査や支援者訪問が進められないことも多くありました。スタッフのコロナウイルス感染と入院や感染予防のための外出禁止令、州をまたぐ往来の制限、トレーナーの病気などです。それでもチームで考えてご寄付をいただくことができたので、少しずつでも支援者を広げていきたいと思っています。

良かったこと

CYK のスタッフが資金を募ることに関わるようになったことで、事業予算の考え方、使い方などを自覚して、運営資金を調達する意味を理解できるようになりました。良かったことは、スタッフそれぞれが予算管理に気を付けるようになってきたことです。

そして計画作りや事業内容について意見交換をしていく中で、カンボジアでも資金を集めていこう、協力してやっていこうという意識が高まりチームとしての一体感が生まれてきました。中期計画、資金集めの方策やモニタリングと評価システムの資料作りも行いました。時間がかかりましたが具体的な成果です。

そのうえ CYK の「村の幼稚園」事業について関係者からの評価や期待されていることを改めて認識し、私たちの事業の大切さを実感でき、仕事への意欲も深まっています。

嬉しいできごとは、トレーナーが CYK の保育事業活動への理解を深め、組織の体制作りや活動への相談にも乗ってくださる頼もしい協力者になっていただいていることです。

頼まなければ何も始まらない

研修を通して学んだことがあります。ご寄付をお願いしたら、支援していただけるか、いただけないかどちらかになります。でも頼まなければ、100%支援はない、何も始まらないということです。そしてお願いして、ご寄付をいただけることになったとしても、いただけても繰り返しお願いすることがとても大事だと思ったことです。

また調査で得られた興味深い考え方や、知らなかった情報もとても多く、関係者との情報交換や面談がとても重要であるということです。CYKではスタッフの採用と研修もあり、仕事はずっと忙しく外部の会議や特にCCCのイベントに参加できていませんでした。そのため他団体や支援者とのコミュニケーションの機会も減っていました。CYKの保育事業活動について説明するためドナーを訪問したときにも、説得力をもって情報を伝えられることの効果と必要性を実感しました。

連携で弱さを補う

CYKの弱いところは、新しい事業への広がりが持ちにくいことです。少ない人数のスタッフが現場での仕事を行うのに多くの時間がとられています。それを補うため、幼児教育の管轄の地域行政、地域の運営委員会、地区評議会と活動の実施方法を見直し連携していきます。例えば会と地域の担当者



幼稚園の保護者への聞き取り

が行うモニタリング訪問研修の回数や指導内容を打ち合わせておき、実施後の保育者の変化や達成できたことを確認し合うことを考えています。新たに計画している保護者への勉強会を幼稚園運営委員会が調整できるように具体的な連携の方法を一緒に考えていきます。そうすることでCYKができる活動の幅を広げていけると思います。そのためには限られた資金と人材ですが、組織体制を安定させ整えていきたいです。

カンボジアでは、幼児教育の事業を行っている40のNGO団体や機関のネットワークNECCD (Network of Early Childhood Care and Development) があります。CYKもメンバーです。今回CYKの運営する「村の幼稚園」の事業に関心を持っていただけそうなたくさんの団体に連絡しました。そのうち国際NGO3団体とお会いできることに

なりました。

NECCDのメンバーは、子どものケアと教育についてそれぞれ異なった視点やアプローチで事業運営をしています。CYKでの情報不足のため把握しきれていない団体や事業もあります。そのためメンバーの行っている事業の情報交換をもっと活発にし、同様な目的を持つ団体との間で協力できることがあるか、連携できる事業は何かを検討し働きかけたいです。

可能性を探る

もう一つ実現できるかどうか調べてみたいことがあります。計画では2022年4月から調査する収入を得る事業の可能性です。CYKが今まで行ってきた就学前教育の普及、保育者の育成の専門性と経験をもとに可能性を検討してみたいと思っています。

CYR 情報

第21回定時総会のお知らせ

2022年5月21日(土)

臨場(東京事務所)とオンラインの併用で開催します。詳細は4月下旬に郵送する総会招集のご案内をご覧ください。

会費お振込み・活動へのご支援は、下記までお願いいたします。

郵便振替 00110-8-36227
三菱UFJ銀行 六本木支店(普通) 1351747
特定非営利活動法人幼い難民を考える会

幼い難民を考える会(CYR)は認定NPO法人です。
ご寄付は税制優遇措置の対象となります。

子どもたちの明日 133号

発行日: 2022年3月31日 発行者: 関口 晴美

プノンペン事務所(CYK)

Borey Piphub Thmey Chhouk Va III, #55, St.95, Prey Sala Village, Sangkat Kakab, Khan Posen Chey, Phnom Penh, Cambodia
TEL: (+855) 23 882 972 FAX: (+855) 23 882 971
Email: info@cyk.org.kh
URL: <http://www.caringforyoungkhmer.org/>

特定非営利活動法人幼い難民を考える会

東京事務所(CYR)

〒110-0016 東京都台東区台東1-12-11 青木ビル3B
TEL: 03-6803-2015 FAX: 03-6803-2016
Email: info@cyr.or.jp URL: <https://www.cyr.or.jp/>